

令和4年度 裾野市地域公共交通活性化協議会（第4回）議事録

日時：令和5年1月23日（月）14：00～16：00

場所：裾野市役所4階401会議室

・出席者 別添資料 No. 1 のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 委員及び出席者の紹介

4. 報告事項

（1）市内循環線の利用状況（資料 No. 3）

- 4月～11月における裾野市内循環線の利用状況報告
 - 月ごとで比較すると、延べ利用者数・1便あたり利用者数ともにそれほど大差は見られなかった。
 - 「青葉台・千福が丘ルート」「青葉台・岩波ルート」を比較したところ、1便あたり利用者数がほぼ同じ数値となった。
 - 便別で比較すると、どの路線も1便の利用者が最も多く、2便から3便にかけて利用者が少なくなる傾向が見られた。

（2）モビリティ勉強会の活動紹介（資料 No. 4）

- 説明者：トヨタ自動車㈱未来創生センター 北濱氏
- 「トヨタ自動車㈱未来創生センター」「(株)豊田中央研究所」「矢崎総業(株)」「(株)三ツ輪交通自動車」「裾野市」にて令和3年度から開始。
- 「データを最大限活用し、裾野市の公共交通（バス・タクシー）による移動の実態を明らかにすること」「分析した結果をもとに、公共交通の利便性向上につながる施策を検討すること」を目的とする。
- 「バス（市内循環線）の利用実態の推定」「バス（全路線）の利便性の評価」の分析事例について紹介。

《質疑等》

- 日本大学 藤井委員

このような勉強会の取組みは地域にとって非常に有意義なものである。事務局と交通事業者、地元事業者が関わってデータ分析をして分析結果を計画に活用するスキームはすばらしい。

バスの利用実態を推定する円グラフはどこに手厚く施せば良いのか検討する材料になる。「他の自治体と比較したときにどこまで移動をカバーできるのか」「路線ごとに

色分けしたときの利用実態」「利用者がどこに行きたいのか」「地区ごとにおける移動の目的性」が分かるデータが示されていると施策につながりやすい。事務局は大変だと思うが引き続き継続して取り組んで欲しい。

- トヨタ自動車(株)未来創生センター 北濱氏

委員の中でもし関心のある人がいれば、協議会終了後に分析したデータを見ながら意見交換できればと思っている。

5. 議事

(1) 裾野市地域公共交通計画(案)(資料 No. 5)

《結果》

- 本日いただいた意見について、内容の修正等の対応は会長と事務局一任(一任について異議なし→承認)

《事務局説明》

- 計画案に対してパブリックコメントを実施。6名の方から33件の意見を頂いた。
- パブリックコメントの結果を反映して計画案を修正。特に異議等なければ本計画として策定したい。

《質疑等》

- 富岡地区代表 八木委員

パブリックコメントにて意見をいただいた6名の年齢や性別等分かる範囲で属性を教えてください。

- 事務局

今回のパブリックコメントでは年齢や性別は聞かない形式をとったため、把握していない。

- 静岡運輸支局 風岡委員

P.11「表3：路線バスの運行状況(令和4年度)」の内容について、以下修正を依頼したい。

- ・注釈で「道路運送法第4条の許可に基づく路線定期運行」である旨を記載してほしい。
- ・運行主体は「バス事業者」ではなくバス事業者の会社名を記載してほしい。

- 事務局

了。対応する。

(2) 単独継続困難申し出路線(資料 No. 6)

《結果》

- 次年度以降の各路線の運行維持について異議なし→承認

《説明》

- 富士急モビリティ(株)から、「御殿場線」「十里木線」における利用実態を報告。
- 富士急シティバス(株)から、「須山線」「桜堤線」「裾野市内循環線」における利用実態を報告。
- どの路線においてもコロナ禍から回復傾向にあるものの、依然として収支バランスは厳しい状況。
- 富士急グループ全体としての利用拡大策・収支改善策を紹介。

《質疑等》

- 特になし

(3) 地域間幹線系統に関する事業評価結果（資料 No. 7）

《結果》

- 事業の評価結果について異議なし→承認

《説明》

- 静岡県地域交通課から、令和3年10月1日～令和4年9月30日までの県内地域間幹線系統運行状況の評価概要を説明。県内13系統の評価が向上したものの、コロナによる利用者減・燃料価格の高騰により依然としてバス事業者が厳しい状況にあることを踏まえ、事業者自身の取組みだけでなく自治体の支援により、引き続きバス路線維持に努めることを報告した。
- 富士急モビリティ(株)から「御殿場線」「十里木線」における系統別評価結果について説明。
- 富士急シティバス(株)から「須山線（御宿経由）」「須山線（帝人経由）」「桜堤線」における系統別評価結果について説明（須山線（帝人経由）は令和4年3月で運行終了）。
- 事務局から、地域間幹線系統市町取組みについて説明。主な取組み内容は、高齢者へのバス・タクシー助成券（2,000円）交付や運転免許返納者へのバス・タクシー利用助成券（3,000円）の交付など。

《質疑等》

- 特になし

(4) 裾野市地域旅客運送サービス継続事業実施計画（改訂案）（資料 No. 8）

《結果》

- 異議なし→承認

《事務局説明》

- 裾野市地域公共交通計画に則って実施計画を改訂。改訂する箇所を説明。

《質疑等》

- 富岡地区代表 八木委員

令和4年4月から配布されている市内循環線チラシでは、バス停の名前は既に変更されているのに、なぜ今になって実施計画の中でバス停の名前を変更するのか。

- 事務局
時系列上、今回のタイミングで変更せざるを得なかった。
- 静岡運輸支局 風岡委員
当局から事務局へ修正を依頼した案件。

(5) 地域公共交通確保維持改善事業評価（資料 No. 9）

＜結果＞

- 異議なし→承認

＜事務局説明＞

- 国庫補助対象となっている地域内フィーダー系統確保維持改善事業（市内循環線）および計画策定事業（公共交通アンケート）について、その評価等を報告する必要があるため、内容を説明。

＜質疑等＞

- 特になし

6. その他（事務局より説明）

- 裾野市老人クラブ連合会長 鎌野委員
バス・タクシー助成券の利用実績は？
- 事務局
現時点で1,155人に対して交付。交付率としては10.7%
- 事務局
委員の任期が2年のため、来年度も引き続きお願いしたい。

7. 閉会